

# NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

## ニュース第14号 (H25.7.7)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄



**はじめに** 7月7日、七夕ですが、当法人の1歳の誕生日でもあります。昨年の同日、設立総会を開催してから1年、多くの方のご支援に心から感謝申し上げます。

### 会の経過報告 1周年を振り返って

平成24年

- 7月7日 法人設立総会 (会員10人で設立)
- 7月9日 法人認証の申請 宮崎市役所地域コミュニティ課に申請書類を提出
- 7月9日 理事会にて本会の英語の名称を「Organization to support Rural Medicine in Zambia」とし、その略称を「ORMZ (mobile clinic)」とすることに
- 9月20日 法人設立認証書が宮崎市から交付され、法務局へ法人登記手続きに
- 9月24日 法人口座として「ゆうちょ銀行清武支店」に口座を開設
- 9月28日 登記事項全部証明書(登記簿謄本)を法務局で交付、所管課である宮崎市地域コミュニティ課に登記完了届出書を提出、併せて宮崎税務署、宮崎県税事務所、宮崎市民税課に法人届出
- 10月11日 巡回診療に欠かせない運搬車両、ランドクルーザー(約237万円)を購入
- 11月末 賛助会員が100名を超える。11月末時点で124名
- 12月 月刊地域医学12月号に法人の設立と「ザンビアのへき地を支える日本人医師の巡回診療・公衆衛生活動」と題した活動概要を掲載

平成25年

- 1月 自治医科大学医学部同窓会会報(第63号:1月1日)に「ザンビアのへき地を支える日本人医師の巡回診療・公衆衛生活動」と題した文書を掲載
- 1月23日 ランドクルーザーが川に流される
- 2月16日 宮崎市にて総会開催、初年度活動報告と会計監査報告等行い承認
  - ①巡回診療事業をチボンゴ郡ルアノ地区やカナカントパ地区で合計17回継続実施し、延べ約2000名の方を診療、②ヘルスワーカーや地区住民に研修活動を実施
  - ①、②による一つの成果として、マラリア患者数の減少、マラリア検査陽性率の減少が
  - ③広報活動として会のニュースを計7回送信、④会員、賛助会員あわせて登録が135名に
- 2月18日 宮崎市地域コミュニティ課に出かけ、事業報告書を提出
- 4月8日 4月になり、宮崎県と宮崎市から法人税納付の案内があり、減免の手続きを申請、承認
- 5月9日 吉野会員のご尽力により法人のホームページが、できあがる <http://ormz.or.jp/>

**会費納入等について** 連絡先は法人代表 [✉ info@ormz.or.jp](mailto:info@ormz.or.jp) 又は日高 ([hidaka1956@gmail.com](mailto:hidaka1956@gmail.com))

新しい事業年度となっていますので、賛助会費(一口5000円、一口以上)の送金を早急にお願いします。

- ★ゆうちょ銀行からの振替 口座記号番号 01720-9-126351  
加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会
- ★他の金融機関からの送金 ゆうちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351  
加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

## 会員投稿 「ザンビア、首都ルサカの変遷」 (会員 櫻井睦子氏)

私が初めてザンビアを訪れたのは 1985 年。ケニアからバスや列車を乗り継いで貧乏旅行の道中であった。当時の首都ルサカは、東アフリカのナイロビやダルエスサラーム等の大都市を見てきた目にも整然と美しく近代的に映った。銅の市場が活況をおび世界有数の銅生産国であるザンビアは潤っていたのだろう。何より印象的だったのは、他のアフリカ諸国にはなかった時刻表通りに走る郵便局が運営する長距離バスの正確さだった。

二度目のザンビア体験は 10 年後の 1995 年に NGO の職員として赴任した時。当時は銅の相場が下落し経済は落ち込み、街の目抜き通りも閑散と落ちぶれた感じがして、これが 10 年前に美しいと思ったあのルサカなのかと目を疑った。国営スーパーマーケットの棚はがら空きで、清涼飲料水や砂糖などわずか数種類の品が延々何メートルにも渡って並べられており、さながら物不足の共産主義国といった感であった。

当時私は首都から約 770km 以上離れたアンゴラ難民居住区で活動する日本人スタッフに、建築資材、車両の部品、食料などを調達していたのだが、一通りの品を揃えるのにルサカ中のめぼしい店を駆け回り、何日も調達だけで謀殺された事をよく覚えている。

その後 2000 年を過ぎると、南アフリカ資本のショッピングモールがザンビアにも建設されて大型スーパーマーケットやホームセンターが身近なものになった。娯楽の少ないザンビアでショッピングはレジャーとなり、お金さえあれば何でも買えるようになったのだ (もっとも刺身だけはまだほとんど手に入らないが)。これと同時期に普及したのが携帯電話。地上電話を引くのに運が悪ければ一年も待たされる多くの途上国で爆発的に普及したわけだが、ザンビアも例外でなく、瞬く間に低所得者層も携帯を持つようになった。ちなみにザンビアの携帯電話はお金を払っただけ通話できる前払い式がほとんどである。後払いでは踏み倒される場合が多いのだ。電気・水道なども最近ではこの前払い方式が導入されている。そしてここ 6、7年で深刻化したのが交通渋滞である。中流層が中古車を買うようになり、その急増ぶりに道路建設が追い付いていかないのである。

以上首都ルサカで垣間見た都市の変遷を書いたが、同じルサカでもコンパウンドと呼ばれる低所得者層の住宅には未だに電気も水道もない所が多く、この数十年ほとんど変化が無い。地方でも、山元先生がモバイルクリニックで行くような、道路が整備されておらず公共交通機関の無い取り残された地区の住人は、ショッピングモールなどには一生縁がなく、医療へのアクセスが難しい為、助かるはずの人々も命を落とすような生活が続いているのである。

他の南部東部アフリカ諸国にも言えることだが、貧富の差は都市が発展するにつれ、ますます広がっていくばかりのようである。このギャップをどう埋めていくのか。国の最大の財産である国民の命を平等に守る政策を期待したい。



マンダヒルショッピングセンター



ルサカ市内の道路状況 (写真は山元先生提供)